

機械器具 (58) 整形用機械器具
一般医療機器 脊椎手術用器械 70963001
脊椎ケージ用手術器械

【警告】
○本品の使用にあたりこの添付文書を事前に十分理解すること。
また患者の安全に細心の注意をはらい添付文書に従って使用すること。
[重篤な不具合、有害事象が発現するおそれがある。]
○本品は脊椎手術等に習熟し、かつ製品特性や手術手技を十分に理解した医師が使用すること。
[重篤な不具合、有害事象が発現するおそれがある。]



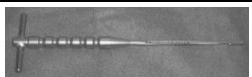






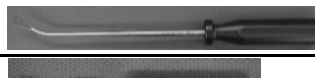
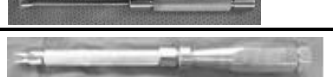
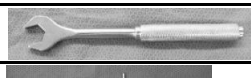







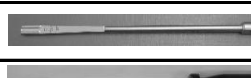

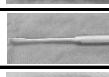


【禁忌・禁止】
○インプラントとしての使用は絶対に行わないこと。
○本品を曲げ、切削、打刻(刻印)等の二次的加工(改造)を行うことは、折損などの原因となるので行わないこと。
○弊社が指定した製品以外との併用はしないこと。
[相互作用の項参照。]
○使用中に手術器械が破損・変形したときは、使用を中止すること。


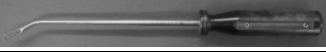



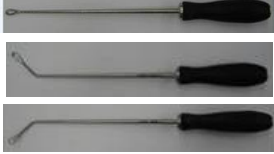
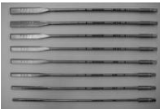
【形状、構造及び原理等】

- 製品外観と製品名
製品名、サイズ等については本体の記載もしくは製品に同梱される一覧表をご確認下さい。
- 材質: ステンレス鋼、樹脂

※写真は代表例

トライアルケージホルダー ロング	
キュレット(メタルハンドル)	
移植骨インパクト 先端平型	
移植骨インパクト 先端丸型	
ボーンファンネル2	
キュレット	
トライアルケージホルダー L	
プリフスターオール	
スクリュードライバー	
ケージトライアル(ワイド、ホルダー付)	
クレセントキュレット 左	
ケージホルダー	
ケージトライアル	
移植骨打込器	
移植骨打込器 カーブ型	

インパクト 把持型	
トライアルハンドル付	
アンテリアルサービカルスプレッター	
DFDDリムーバー	
トルクドライバー	
クレセントキュレット 左向	
クレセントキュレット 右向	
クレセント移植骨用台 メタル	
クレセントラスプ	
クレセントトライアル ショート	
クレセントキュレット 右	
最終打込器 ストッパー付	
ケージホルダー 先端細	
解除用レンチ	
ケージホルダー L	
抜去用スライドハンマー	
ラスプ用スライドハンマー	
スクリュードライバー(ショート)	
メジャー(C-バルロック用)	
ボーンファンネル	
L-バルロック用レトラクター	
移植骨用台 片側カット	
T型PLIFシェーバー	
PLIFシェーバー先	
ラスプ	
バルロック用スクリュードライバー(ラチェット付)	
椎間スターターシェーバー	
PLIF椎間シェーバー	

L-バルロックリーマー	
クレセントキュレット 30° 15D	
椎体間スプレッダー	
椎体間スプレッダー用ハンドル	
T型ハンドル	
キュレット	
ディスクディストラクター	

【使用目的、効能又は効果】

本器械は、当社指定の脊椎ケージを取り扱う際に使用する再使用可能な手動式の脊椎手術用器械である。

【使用方法等】

1.使用前

本器械は未滅菌であるので、使用前に必ず洗浄を行い下記の条件の高圧蒸気滅菌法又は各医療機関により検証され確認された滅菌条件により滅菌を行う。

滅菌方法：高圧蒸気滅菌

滅菌条件：

温度	時間
115～118℃	30分
121～124℃	15分
126～129℃	10分

2.使用方法

(使用するシステムの添付文書及び手術手技書を参照すること。)

- (1)トライアルケージホルダー ロング
トライアルケージを接続し使用する。
- (2)キュレット(メタルハンドル)
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (3)移植骨インパクト 先端平型/先端丸型
インプラントへ移植骨を充填するために使用する。
- (4)ボーンファンネル2
移植骨を椎間に充填するために使用する。
- (5)キュレット
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (6)トライアルケージホルダー L
トライアルケージを接続し使用する。
- (7)プリフスターオール
椎間板の切開のために使用する。
- (8)スクリュードライバー
インプラントを開大するために使用する。
- (9)ケージトライアル(ワイド、ホルダー付)
インプラントサイズを計測するために使用する。
- (10)クレセントキュレット 左
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (11)ケージホルダー
インプラントを把持するために使用する。
- (12)ケージトライアル
トライアルケージホルダーに接続しインプラントサイズを計測するために使用する。
- (13)移植骨打込器
移植骨を椎間に充填するために使用する。
- (14)移植骨打込器 カーブ型
移植骨を椎間に充填するために使用する。
- (15)インパクト 把持型
インプラントを把持するために使用する。
- (16)トライアルハンドル付
インプラントサイズを計測するために使用する。
- (17)アンテリアルサーピカルスプレッダー
椎間高の確保のために使用する。
- (18)DFDDリムーバー
インプラントの抜去に使用する。
- (19)トルクドライバー
インプラントを開大するために使用する。
- (20)クレセントキュレット 左向
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (21)クレセントキュレット 右向
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (22)クレセント移植骨用台 メタル
インプラントに移植骨を充填する際の台として使用する。
- (23)クレセントラスプ
椎間の母床を作成するために使用する。
- (24)クレセントトライアル ショート
インプラントサイズを計測するために使用する。
- (25)クレセントキュレット 右
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (26)最終打込器 ストッパー付
インプラントを打ち込むために使用する。
- (27)ケージホルダー 先端細
インプラントを把持するために使用する。
- (28)解除用レンチ
ケージホルダーのロック解除のために使用する。
- (29)ケージホルダー L
インプラントを把持するために使用する。
- (30)抜去用スライドハンマー
ケージホルダーに接続し、抜去するために使用する。
- (31)ラスプ用スライドハンマー
ラスプに接続しラスプの挿入、抜去のために使用する。
- (32)スクリュードライバー(ショート)
インプラントを開大するために使用する。
- (33)メジャー(C-バルロック用)
インプラントサイズを計測するために使用する。
- (34)ボーンファンネル
移植骨を椎間に充填するために使用する。
- (35)L-バルロック用レトラクター
神経を保護するために使用する。
- (36)移植骨用台 片側カット
インプラントに移植骨を充填する際の台として使用する。
- (37)T型PLIFシェーバー
椎間板を搔爬するために使用する。
- (38)PLIFシェーバー先
ハンドルに接続し椎間板を搔爬するために使用する。
- (39)ラスプ
椎間の母床を作成するために使用する。
- (40)バルロック用スクリュードライバー(ラatchet付)
インプラントを開大するために使用する。
- (41)椎間スターターシェーバー
椎間板を搔爬するために使用する。
- (42)PLIF椎間シェーバー
椎間板を搔爬するために使用する。
- (43)L-バルロックリーマー
椎間板を掘削するために使用する。
- (44)クレセントキュレット 30° 15D
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (45)椎体間スプレッダー
椎間高の確保のために使用する。
- (46)椎体間スプレッダー用ハンドル
椎体間スプレッダー、及び本品と接続可能な手術器械に接続し、使用する。
- (47)T型ハンドル
ディスクディストラクター、及び本品と接続可能な手術器械に接続し使用する。
- (48)キュレット
椎間板組織等を取り除くために使用する。
- (49)ディスクディストラクター
椎間高を確保、及び椎間板の搔爬のために使用する。

【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

- (1)衝撃や表面損傷が原因で破損することがあるので、丁寧に取り扱い扱うこと。
- (2)本器械は過度で異常なストレスに耐えることはできない。
- (3)本器械はインプラントではないので術後、体内に埋没させないこと。
- (4)使用後は、付着している血液、体液、組織等の汚物を直ちに除去し、洗浄、消毒、乾燥させること。
- (5)本品がハイリスク手技に使用された場合には、プリオン病感染予防ガイドラインに従った洗浄、滅菌を実施すること。
- (6)本品がプリオン病の感染症患者への使用及びその汚染が疑われる場合には、製造販売業者又は貸与業者に連絡すること。

2.相互作用

併用禁忌・禁止(併用しないこと)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
他メーカーのインプラント	不具合が発生する危険性が高まるおそれがある。	インプラントの構造やサイズが正確に適合せず、インプラントが正しく設置されないことがある。

3.不具合・有害事象

以下の不具合・有害事象が発現する可能性がある。

(1)その他の不具合

- ①手術器械の破損、変形
- ②インプラントの破損、緩みや変形

(2)その他の有害事象

- ①外科的侵襲、本器械の不適切な使用又は破損による神経組織の損傷、麻痺、軟部組織の損傷、圧迫、疼痛、周辺臓器の損傷
- ②骨の亀裂、骨折、穿孔
- ③本器械の破損、滑りによる患者及び手術従事者の負傷
- ④破損片等の体内遺残

不具合・有害事象は上記に限定されない。これらの不具合・有害事象の治療のため再手術が必要な場合もある。

4.高齢者への適用

高齢者は、一般的に骨量・骨質が十分でないことが多いので、手術器械でもって術中に過度の力を加えることにより骨折したりインプラント後に緩み等が起きる可能性があるため慎重に使用し、術後の経過にも十分注意すること。

【保管方法及び有効期間等】

- (1)保管にあたっては、洗浄した後、腐食を防ぐために保管期間の長短にかかわらず乾燥を行うこと。
[保管中は、器械が損傷しないように十分注意して下さい。]
- (2)滅菌済のものを保管するにあたっては、再汚染を防ぐため清潔な場所に保管をするとともに、有効期間の管理をすること。

【保守・点検に係る事項】

- (1)使用前に、損傷、腐食、汚染、接道不良等、異常がないか外観検査を実施すること。
- (2)使用後は、洗浄、すすぎ等により汚染除去を行った後、血液、組織等が付着していないことを確認し、滅菌を行った後保管すること。
- (3)汚染除去には、必ず医療用洗剤等を適正な濃度で使用すること。
- (4)洗剤の残留がないよう十分すすぎをすること。仕上げのすすぎには、浄化水(ろ過、蒸留、脱イオン化等)を用いることを推奨する。
- (5)洗浄装置(超音波洗浄器等)で洗浄するときは、鋭利な器具と接触して損傷することがないように注意すること。また、器具の隙間や接続部に異物等が付着・残存していないことを確認すること。
- (6)ラチェットのある器具はラチェットをかけずに開いた状態にすること。
- (7)ボックスロック(合わせ部、交差部)のある器具は開く・分解するなどすること。
- (8)強アルカリ・強酸性洗剤・消毒剤は、器具を腐食させるおそれがあるので、使用を避けること。
- (9)金属ブラシ類、クレンザー(磨き粉)等は、器具の表面が損傷するので汚物除去及び洗浄時に使用しないこと。
- (10)複雑な構造の器具は隙間部や嵌合部は柔らかいブラシ等で特に入念に異物除去を行うこと。
- (11)複数の部品を組み合わせている器具は分解した状態で洗浄すること。
- (12)中空状の器具は、棒状のクリーナーを用いて中に入った組織片、残り屑を除去してから洗浄すること。
- (13)洗浄後は、腐食防止のために直ちに乾燥すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

* 製造販売業者

ナカシマヘルスフォース株式会社
TEL. 086-279-6278(代表)